

令和5年度 認定こども園 鳥取みどり園 学校評価

1 教育保育目標 心身ともに健康で豊かな人間性をもった子どもの育成

2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画を基に設定した

【学校評価の具体的な評価項目や計画】

- (1) 重点目標 心と体を十分に動かして生活したり遊んだりする力を育む。
- (2) 研究のテーマ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために つながる喜びを通して表現する力を育むための環境や援助のあり方を考える
- (3) 子育ての支援 子どもの最善の利益を踏まえ、子どもの存在そのものを尊重し子どもの立場に立った子育ての支援を行う

- (1) -①： 戸外で身体を動かして遊ぶことの開放感を味わいながら思い切り活動する。
- (1) -②： 活動意欲を満足させる体験を重ね、身体の調和的発達を促す。
- (2) -①： 相手に分かるように言葉で伝えようとする事で自分の考えがまとまったり深まったりする。
- (2) -②： 安心して自分の思いや考えを積極的に言葉などで表現する。
- (3) -①： 保護者と子どもの安定した関係づくりや保護者の養育力の向上に繋がる支援とする。

◎項目及び項目4の評価結果の表示方法

A	十分達成されている	B	達成されている
C	取り組まれているが、成果は十分でない	D	取組が不十分である

3 評価項目の達成状況及び取組状況

評価項目	結果	理由
1、十分に全身を動かし、活動意欲を満足させる体験を重ねる保育の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育教室で体験したことや他学年の遊びを自分たちなりに発展させながら遊びを広げていた。必要に応じて保育教諭が物的環境を整えたり、ルールの確認を一緒に行うようにしたりした。 ・ 子供の姿から、子どもたちの興味の広がりに沿って展開する活動は、活動意欲が高まり、この意欲が十分に全身を動かして活動することや、全身の調和的発達を促すことに繋がったと思われる。
2、自分の思いを表現し、伝える喜びが感じられるような保育の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども間でトラブルが起きた時、自分たちの話しで解決しようとする姿が増えた。 ・ 友達との遊びの場で、自分が言葉で伝えたことが周りの人の気づきや考えに繋がったり、新たな遊びへと繋がったりしていくことの満足感が味わえたように思う。また、保育教諭も一緒に遊びを共有することを意識した。一緒に遊ぶことで子どもの思いを知り、必要に応じてその思いを周りの友達に分かるよう伝えるようにした。
3、通常の保育と延長保育を一体的に展開	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍が終わったことで以前のように、異年齢児の交流が楽しめるようになってきたことで、グラウンドやホールで他クラスの友達と遊べたり触れ合ったりできるようになった。このことが延長保育の場での温かな人間関係につながったと思われる。 ・ 延長保育を利用される保護者に対して、通常の保育の場での出来事や様子を丁寧に伝えることを心掛けた。このことは、保護者の子育ての安心感につながったと思われる。

4、総合的な評価結果の概要

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広々としたグラウンドと園庭に恵まれた本園は戸外でのびのびと活動する開放感を味わいながら思い切り活動することが楽しめる環境にある。園児の活動の様子から、自ら発達していく機能を十分に使って活動していることにより更に他の機能の発達が促されていることが見て取れる。 ・ 健康な身体づくりを受教育・保育の重点に置いていることから、年間を通してマラソンの曜日を決めて進めてきたが、天候に左右されできなかったり、その日の保育の優先順位でやらなかったりと継続が難しかった。残念である。 ・ 育ってほしい姿に「言葉による伝え合い」とし、年間を通して研究を進めてきた。言葉を交わすには、まず、学級が安心して話せる場であること、そして担任が自分のことを肯定的に見てくれているという安心感が何よりも大事であることが分かった。 ・ 異年齢児が共に過ごす延長保育の時間の過ごし方を改めて見直すことができた。利用児の皆が家庭的な雰囲気の中で過ごすことの大切さと迎える保護者との細やかな連携のあり方を考えてみる事ができた。